



みんなでがんばろう●日本


 2017 年度 年次報告書
 GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE RECOVERY INITIATIVES FOUNDATION

公益財団法人東日本大震災復興支援財団



代表理事

立石 勝義

東日本大震災から8年目の春を迎えました。今年の3月11日を過ぎた頃、東北3県で活動をされているさまざまな方を訪問し、各所での活動を視察いたしました。沿岸部地域の高台移転や嵩上げ工事が行われている地域では、震災前の景観とは大きく変わりつつあります。福島県の沿岸市町村でも、多くの地区で避難指示解除となっており、未来に向けての動きが活発化しております。しかしながら、これからの生活について思い悩まれる方がまだまだ多くいらっしゃることは容易に想像できます。新しい居住区での人との結びつきや、震災起因による精神的不安を持つお子さんへ心のケアが継続的に求められることなど、ソフト面へのサポート体制が重要視されております。また、これら課題解決のため、精励される団体も着々と地域に根付き、年を経るごとに支援の輪は広がりをを見せています。

今後も当財団は、こうした団体の長期的な活動を継続するための支援や、これからの東北を担う人材を育成する支援活動を継続してまいります。また、人材育成だけでなく、震災の影響により経済的に困難な状況にある若者への支援も継続してまいります。多くの皆さまからお寄せいただいているご厚意を無駄にすることなく、これからも東北のお子さんたちへ届けていく所存です。

今後とも、引き続きのご支援をくださいますようよろしくお願いいたします。

当財団の理念

復興支援を通じて、
次の世代が幸せに暮らす
社会の創生に貢献する。

目指すビジョン

子どもたちが夢と
希望を育む
環境を実現する。

設立～2018年3月末まで

支援額合計

38.74億円

※2018年3月助成決定額も含む

支援者数合計

約78,200人と473の団体

※詳しい支援活動の内容は、中面をご覧ください。

活動のあゆみ



2017年度 トピックス

御礼 ～ご寄付が総額10億円に～

このたび、皆さまからお預かりしたご寄付の総額が10億円を超えましたのでお知らせいたします。

今までご寄付いただいた人数は、延べ40万人以上、法人・団体では約2,200団体にものぼります。日本に限らず、世界中からお寄せいただいたご寄付の輪は、年々広がりを見せており、今もなお多くの方に継続的な支援をしていただいております。改めて財団職員一同、心より御礼申し上げます。

皆さまからのご厚意は、これからも東北の子どもたちへ届けてまいります。

ホームページに特設ページを設置しております。支援者から「東北への応援メッセージ」、支援を受けた方から「御礼メッセージ」を掲載しておりますのでぜひご覧ください。

2017年度活動報告会を実施しました

日頃当財団へご支援をいただいている皆さまに感謝の気持ちを届け、東北の現状をより深くご理解いただくことを目的として2018年3月7日に開催いたしました。震災から8年目を迎えた東北の現状や、事業活動の報告、まなべる基金奨学生のスピーチなど第一部の終了後には、ご参加いただいた皆さま、ご登壇いただいた皆さまと懇親会を開催しました。懇親会では、宮城県石巻市の特定非営利活動法人 かぎかつ PROJECT 様にご協力いただき、高校生が地元の魅力ある商品を販売する「高校生百貨店」の販売コーナーを設置し、多くの東北銘産をご紹介いただきました。

参加いただいた皆さまからは「報道されない東北の生の声を聞いて良かった」、「財団のホームページだけではわからない情報もあって興味深かった」などの嬉しいお声をいただきました。

寄付者の皆さまをはじめ、多くの支援者の皆さまにお越しいただき、お礼や活動状況をお伝えすることができただけでなく、さまざまなご意見や励ましのお言葉をいただきました。ご来場いただきました皆さま、本当にありがとうございました。



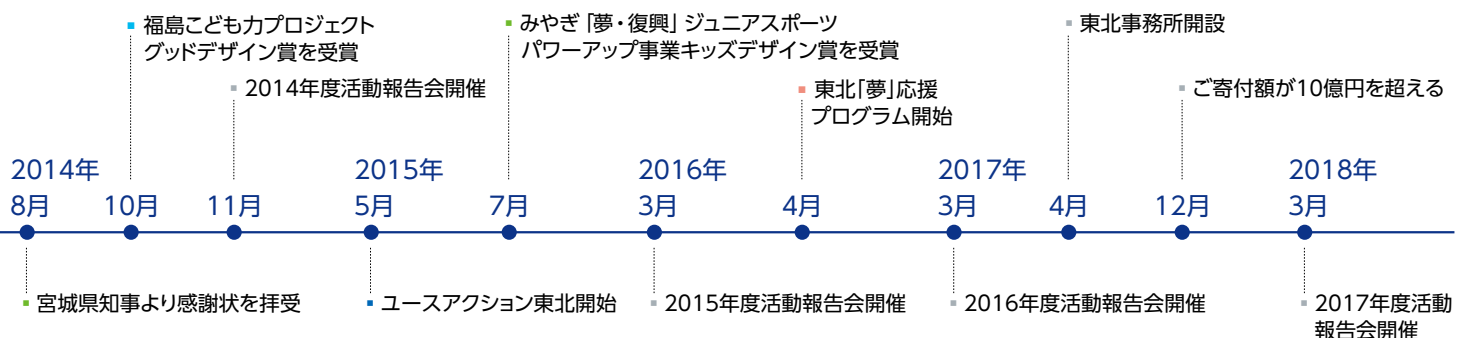
湘南国際マラソン実行委員会との共同企画を実施



2017年12月3日に開催された第12回湘南国際マラソンの大会参加費の一部をご寄付いただき、ランニングをテーマとした次世代育成企画を湘南国際マラソン実行委員会と共同で実施いたします。

スペシャルコーチとしてマラソンランナーの千葉真子さんをお迎えし、福島県南相馬市の小中学生へ走る楽しさを体感してもらうイベントを開催予定です。

小学生を対象とした1DAYプログラム「RUN FOR FUN」と、中学生を対象とした半年間の指導プログラム「RUN FOR GOAL」を開催します。半年間のプログラムでは、動画を用いた遠隔指導も行い、2018年12月1日の第13回湘南国際マラソン前日イベント「SHONAN HAPPY DAY」で成果発表を行う予定です。



学べるしあわせをみんなに。

高校生対象給付型奨学金
「まなべる基金」

給付型奨学金

まなべる基金



東日本大震災の影響により家庭の経済状況が変化し、就学や進学が困難となった高校生のための、返還不要の奨学金制度です。高校入学から卒業までの間、**最大48万円**を給付しています。高校生向けの給付型奨学金制度が少ない中、進学・就学が困難な状況においても学ぶことをあきらめない高校生を応援し続けています。

支援総額 **15.53億円** 支援者数 **2,815人**

※今後の支給予定額および支給予定者も含む

連携団体

◎NPO法人ジービーパートナーズ



支援のお礼メッセージ まなべる基金

私は、高校生活でライフセービングの活動を始めるなど、まなべる基金のおかげでさまざまなことにチャレンジすることができました。そして無事、第一志望の大学に合格できたので、これからはこれまで寄付者の方々からいただいたご恩に応えられるよう、震災を機にできた「看護師」という夢に向かって頑張ります。寄付者の皆さま、今まであたたかいご支援をいただき本当にありがとうございました。

(岩手県釜石市／2018年3月卒)

支援活動団体向け助成
子どもサポート基金

子どもたちの成長を支える団体の活動をバックアップ

子どもサポート基金



東北の子どもたちの支援活動に取り組むNPOやボランティア団体への助成を行っています。団体が継続して活動できるよう、**複数年にわたる助成**を行うとともに、**組織の基盤強化をサポート**し、子どもたちが心身の健康を回復・維持し、希望を持ってたくましく成長できるような健康づくりを推進しています。

支援総額 **9.77億円** 支援件数 **349団体**

※今後の助成予定額および助成予定団体も含む

※2017年度は前年度に助成した団体へ継続支援を実施。



助成団体のメッセージ 子どもサポート基金

震災から8年、多くの方が新しい土地での生活を始めていますが、まだまだ安定した生活に至っていない現状があります。宮城県石巻市・仙台市での本活動を通し、これまで知らない者同士だった子どもや大人が地域で関わるきっかけを作ることができました。今後も子ども達がのびのびと地域で育ち、安心して過ごすことのできる環境づくりをサポートしていきます。また、我々の取り組みは被災地だけの問題ではないと考えます。日本の社会を豊かで明るくするための試みとして、社会に還元できるよう日々活動、発信をしていきます。今年度もご支援ありがとうございます。（宮城県石巻市／特定非営利活動法人 にじいろクレヨン）



スポーツを通じて夢を応援 みやぎ「夢・復興」 ジュニアスポーツパワーアップ事業



宮城県の復興を支える人材を育成するため、スポーツを通じて、心身ともにたくましく成長する環境を提供しています。

最先端のトレーニングを体験し、さまざまな競技に挑戦することでトップアスリートを目指す子どもたちの夢を応援しています。

この事業は宮城県からも高く評価され、2019年4月からは宮城県の自主事業として、公益財団法人宮城県スポーツ協会を中心とした県の予算にて実施していくことを検討しています。

支援総額 **3.66億円** 支援者数 **494人**

※今後の支援予定額および支援予定者も含む

主催

◎みやぎ「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業実行委員会

主な構成団体

◎宮城県教育委員会

◎公益財団法人宮城県スポーツ協会

NEW

うつくしまスポーツキッズ発掘事業



震災後、屋外での活動が減少傾向だった福島県の子どもたちに運動の機会を提供することで、体力および運動能力の向上を目指しています。

また、ふるさとを深く知るためのプログラムやさまざまな競技に挑戦することを通じ、福島県の復興を支える人材の育成にも寄与します。

支援総額 **1,595万円** 支援者数 **1,087人**

※2018年3月までの支援額

※支援者数は延べ人数

※2018年度から「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」に名称変更

連携団体

◎公益財団法人福島県体育協会



地域と向き合う若者の活動を支援し、東北に活気と変化を創造する

ユースアクション東北



地元の復興や活性化に取り組む高校生や大学生の活動を支援します。活動費用の助成の他、活動の実現に向け助言や協力をしてくれる「伴走者」を紹介することで、思いを形にできる人材への成長を後押しする取組です。東北に更なる活気が生まれていくことを目指し、各地域の伴走者がお互いの経験や知見を共有する機会も設けています。

支援総額 **350万円** 支援件数 **23件**

※2018年3月までの支援額

連携団体

◎認定NPO法人カタリバ

◎認定NPO法人底上げ

◎一般社団法人 Bridge for Fukushima

助成団体のメッセージ ユースアクション東北

岩手県一関市の桜の木で染めた巾着を製作販売しました。木からこの色が出ることへの驚きの声、桜を懐かしむ声、活動存続への期待、企業コラボ話等様々な声を聞くことができました。皆さまの支援をいただき、この活動を通して改めて地元の良い部分が見えてきました。この貴重な経験をもとにより盛り上げていきたいと思ひます。

(岩手県一関市／color-ring)



自ら行動する力を育み、未来の東北を担う人材を目指す

東北「夢」応援プログラム



東北の子どもたちへ、スポーツなどの専門的な指導機会を提供し、夢や目標の実現を応援します。子どもたちは直接指導だけでなく、情報通信ツールを活用し、日本各地にいるプロのコーチから動画による専門指導を受け、自ら掲げた夢や目標の達成に向けて計画的に練習に励みます。数か月間の継続的な指導を行い、子どもたちの主体的に行動する力を育むことで、将来の東北を担う人材の育成を目指します。

支援総額 **6,437万円**

支援件数 **601人**

※2018年3月までの支援額

協力団体

◎ソフトバンク株式会社

(動画指導で活用する通信機器をプロコーチなどへ貸し出し)



支援団体のメッセージ 東北「夢」応援プログラム

子どもたちは、目標や課題を達成するため自主練習に取り組むなどバスケットボール技術が向上しました。また、人前で発表することも出来るようになりました。プロのコーチに直接教えていただいたことで、プロの世界を身近に感じ、ますますバスケットボールが好きになっています。

このような機会を与えていただき、大変感謝しております。ありがとうございました。

(福島県福島市／松川スポーツ少年団ミニバスケットボール部保護者会)

福島こども未来塾



福島県の未来を担う人材の育成を目指し、自然体験や、郷土文化の学習、国際交流など、1年をかけて総合的な体験活動を提供しています。仲間と一緒に寝食を共にし、さまざまなチャレンジを重ねながら、福島未来や自分自身の将来を描きます。

支援総額 **3,450万円**

支援者数 **123人**

※今後の支援予定額および支援予定者も含む

主催

◎独立行政法人国立青少年教育振興機構

連携団体

◎一般財団法人UNITED SPORTS FOUNDATION

◎NPO法人じぶん未来クラブ など



助成団体のメッセージ 福島こども未来塾

私の将来の夢は、福島に役立つ人になることです。そう思うようになったきっかけは、未来塾で福島のために活動している人をたくさん見てきて、自分もそうなりたと思ったからです。2回目の未来塾では大内宿について学び、そこでは伝統を守るため努力していることを学びました。私も福島伝統を守る仕事をしたいと思いました。これからも、もっと福島のことを学びたいです。

(福島こども未来塾参加 小学5年生)

当財団に関する情報を発信しています。
ぜひご覧ください。

東日本大震災復興支援財団

検索

みんなで
がんばろう
日本

<http://minnade-ganbaro.jp/>



<https://www.facebook.com/ganbarojp>



話す・つながるをサポート

18歳まで携帯料金サポート



震災で保護者を亡くした子どもたちが、身近な人々と話し、つながるためのコミュニケーションツールとして、携帯電話の料金をサポートしています。

子どもたちが18歳になるまでの間、電話会社に関わらず、携帯電話やスマートフォンの料金を月々1万円までお支払いし、子どもたちを含むご家族の経済的な負担を軽減します。

支援総額 1,577万円 支援者数 50人

協力団体

◎あしなが育英会

◎公益財団法人全国里親会

その他の支援活動

将来、東北の復興を担う人材の育成など、他にもさまざまな支援活動を行っています

NPO法人福島SAND-STORY

福島県内で開催する親子砂遊びプログラム事業への支援

特定非営利活動法人会津エンジン

福島県大熊町の中学生を対象とした人材育成事業「漫才講座」を支援

学校法人専修大学 石巻専修大学

「復興まちづくり情報交流館プロジェクト」実施への支援

特定非営利活動法人エムジョイ

岩手県宮古市における体力向上プログラムへの支援

気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード実行委員会

宮城県気仙沼市の高校生を対象としたリーダーシップ育成プログラムを支援

特定非営利活動法人キッズドア

東北3県の高校生を対象としたリーダーシップ育成プログラムを支援

公益財団法人福島県体育協会

福島の幼児への運動機会の提供を行う「あそんで体力アップアップ事業」を支援

特定非営利活動法人TATAKIAGE Japan

福島県内の中学生を対象としたリーダーシップ育成プログラムを支援

魂に響くギフトコンサートの会

音楽の力で福島県内の子どもたちの心のケアを行う活動を支援

団体概要

団体名 公益財団法人東日本大震災復興支援財団
設立日 2011年6月14日
人員構成 評議員6名、理事7名、監事2名、職員18名
評議員 寺島実郎 一般財団法人日本総合研究所 会長
小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長
村井 純 慶應義塾大学 環境情報学部 部長・教授
中村 伊知哉 慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科 教授
藤原 和博 教育改革実践家
青野 史寛 ソフトバンク株式会社 専務執行役員 兼 CHRO/CCO

代表理事 立石 勝義
理事 荒井 優 学校法人札幌慈恵学園 札幌新陽高等学校 校長
佐藤 大吾 一般財団法人ジャパンギビング 代表理事
大橋 智哉 税理士法人山田&パートナーズ マネージャー
岡本 正 銀座パートナーズ法律事務所 弁護士
所澤 新一郎
池田 昌人 ソフトバンク株式会社 人事総務統括 CSR 統括部 統括部長
監事 君和田 和子 ソフトバンクグループ株式会社 常務執行役員 経理統括
佐藤 健文 優成監査法人 代表社員
会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

ご寄付のお願い

当財団では、皆さまからのご寄付を受け付けております。いただいた寄付金は被災地の子どもたちの支援のため、大切に活用させていただきます。ご寄付の方法については、下記または当財団のホームページをご覧ください。

財団の活動全般へのご寄付

銀行振り込み

当財団が行う支援活動全般へのご寄付です。いただいた寄付金は、被災地の子どもたちを支援するための活動に100%役立ててまいります。

みずほ銀行 大手町営業部 (112)
普通預金 3514117

公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(コウエキザイダンホウジン ヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン)



かざして募金

SoftBank の
スマートフォンから



その他の
携帯電話から



※ SoftBank のスマートフォンをお使いの方は、携帯電話料金と一緒に寄付金をお支払いいただけます。

※ SoftBank のスマートフォン以外をお使いの方は、「かざして募金」のページ経由でクレジットカード決済となります。

携帯電話から

特定の活動へのご寄付

「まなべる基金」銀行振り込み

本口座への寄付金は、「まなべる基金」の奨学金事業実施のため100%役立ててまいります。

みずほ銀行 大手町営業部 (112)
普通預金 3514439

公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(コウエキザイダンホウジン ヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン)

学べるしあわせをみんなに。

高校生対象給付型奨学金

「まなべる基金」

その他、クレジットカードや、JapanGiving、Tポイントによるご寄付も受け付けております。詳細は、当財団ホームページをご覧ください。

<http://minnade-ganbaro.jp/shien/donation/>

寄付の税制優遇措置について

当財団へのご寄付は、税制優遇を受けられます。



※ 1 個人住民税の対象は、全国一律ではありません。詳しくはお住まいの都道府県税事務所・各市町村の徴収窓口までお問い合わせください。

※ 2 法人の申告については、その法人の資産や所得の金額によって限度額が異なります。各法人の経理部門または最寄りの税務署へお問い合わせください。

寄付者の皆さまからのメッセージ

戸田市立美笹中学校 吹奏楽部

私たちは、埼玉県戸田市にある美笹中学校吹奏楽部です。全校生徒 265 名で、吹奏楽部員は 37 名です。「日頃の感謝と震災復興」をコンセプトに 2013 年から定期演奏会を行い、当日は募金活動も行っています。昨年は 9 月に開催し、多くの方に募金へ参加いただきました。東北の子どもたちのために、私たちでもできることを考え、継続的な声掛けや取組みを行ってまいります。

株式会社社時空間

私たちは、宮城県仙台市および愛知県岩倉市でペアオーダーアクセサリー専門店 FISS を運営しています。「今、私たちに出来る事は何かあるだろうか？」を考え、2011 年の震災直後からセミオーダーメイドペアアクセサリーをご購入いただいた収益の一部 (1 購入に対し 50 円) をチャリティとして寄付し続けています。私たちの取組みが東北の子どもたちの未来を支える力になることを祈っております。

2017 年度にご寄付をいただいた皆さま (敬称略・50 音順)

※ 1 回の寄付金額が 10 万円以上で、承諾をいただいた方のみ掲載させていただいております。

アイティメディア株式会社	お茶の水女子大学附属高等学校文化祭実行委員会	株式会社秀建コーポレーション	成田山深川不動産
秋葉 公子	神奈川県立希望ヶ丘高校記念祭運営委員会	一般財団法人住総研	HARIO 株式会社
株式会社アロウズガーデンデザイン	第 36 回川口マラソン大会実行委員会	第 12 回湘南国際マラソン実行委員会	株式会社泉屋
アンカー・シップ・パートナーズ株式会社	久喜音楽文化振興会	鈴木 千恵子	結婚指輪専門店 雅 -miyabi-
乾 倫久	株式会社 KTS コーポレーション	ソフトバンク コマース & サービス株式会社	メーアコルン
岩本 和広	国際石油開発帝石株式会社	大東文化大学第一高等学校 PTA	株式会社ライフワーク・ストレスアカデミー
SBクリエイティブ株式会社	札幌市苗穂・本町地区センター利用者一同	東京都市大学 学生団体連合会	特定非営利活動法人 ワークスコープ夢コープ
NPO法人 小江戸大江戸トレニックワールド	株式会社ジャックス	東京都立小平高等学校	
おおつか歯科クリニック	一般社団法人住環境保全補強協会	第 34 回戸田マラソン大会実行委員会	

その他、ソフトバンク株式会社より、職員が利用する携帯電話端末とタブレット端末を無償貸出いただいております。

みんなで
がんばろう
日本

公益財団法人東日本大震災復興支援財団

〒105-7313 東京都港区東新橋 1-9-1 東京汐留ビルディング 13 階
TEL:03-6889-1560 FAX:03-6889-1568
東北事務所: 〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1-1-20 花京院スクエア 23 階



この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に、デザイン制作および製造を依頼し発行したものです。

2018 年 6 月発行